

ヤングケアラーなど課題共有 淡路で県社会福祉大会、700人参加

2025/11/6 20:20 

社会 淡路



壇上であいさつする斎藤元彦知事＝淡路市志筑新島



社会福祉に関わる県民や団体が集う「第73回兵庫県社会福祉大会」が6日、淡路市志筑新島のしづかホールで開かれた。約700人が参加し、日常的に家事や家族の世話を担う「ヤングケアラー」などの課題について認識を深めた。

県や県社会福祉協議会などの主催。開会冒頭で、県福祉コミュニティ憲章を朗読し、会場は「英知と技術を福祉に生かす」と声をそろえた。

主催者あいさつで斎藤元彦知事は「ヤングケアラーやひきこもりなど、これまでの制度では支援が届かない人への対応が求められている」と強調。「県内の関係団体が地域や分野を超えてつながる体制の構築などに取り組む」とした。

社会福祉法人連絡協議会のうち、地域貢献を積極的に行う団体を認定する制度「ひょうごほっとかナイト」の認定式も初めて開かれ、神戸市兵庫区と南あわじ市の2団体を選出。福祉事業などの功労者・団体に対する表彰もあった。

講演では、淡路市在住の絵本作家田島征彦さんが、自閉症の少年と友達の交流を描いた自作「ふしぎなともだち」などを朗読し、共生社会への願いを語った。（荻野俊太郎）